

地域にはばたく市民パワー！

ところざわ倶楽部「広場」

所沢市民大学修了者の会 広報紙

2012 年 1 月号 (第46号)

発行責任者 加曾利 厚雄



水天宮初縁日風景:大河原功さん提供

《巻頭言》

ことばの力を信じて

傍聴席 平栗 彰子

昨年は日本人誰にとっても特別な年だったと思います。いくつもの大きな自然災害に人的事故も重なって、対応の遅れが未だに尾を引いています。

テレビや新聞の報道では、それなりの職責にある人が次々に現れて説明を重ねてきました。曰く「想定外」、「千年に一度」等々・・・

日本の最高責任者の「原発は冷温停止状態にあり収束した。」という表現に唖然として 2011 年は終わり、不安を抱えたまま新しい年を迎えました。

これらの場面を通じて、ことばが伝わらないもどかしさを感じ、不信を抱いたのもこれまでにない経験でした。受け手にも、知る意欲の欠如等の責任がありますが、伝える側は、物事が想定通りに運ばないときは尚更、真実を正確に伝えようという意思を持って臨んで欲しいと思いました。

ところざわ倶楽部も発足から 5 期目の充実期を迎えます。会員数の増加とサークルの輪の広がりにより、地域へ学びを還元するという、会本来の目的に沿った

活動への試みも見られます。組織が外に大きくなる時は、内への結束の確認も必須です。

会員の共感を得られるような、ことばによる情報伝達を工夫していく必要があります。倶楽部では「広場」がその大きな役割を担っています。広報紙を「広場」と名づけたのは、人が寄り、語り合って共感できる場を、と願ってのことでした。倶楽部本体の推進力と、サークル活動のバランスを考えながら、5 期が進んでいくことを期待いたします。

おわりに、最近読んだ高木仁三郎氏の著書^(注)で心に残った、高木氏が友人から贈られた言葉を引用したいと思います。

本気ですれば たいていのことが出来る

本気ですれば 何でも面白い

本気でしていると 誰かが助けてくれる

氏は市民科学者と自らを命名して脱原発を訴えてきた人です。一読をお勧めします。

(注)：『市民科学者として生きる』及び『原発事故はなぜくりかえすのか』、いずれも岩波新書

1 月度及び3 月度事業について

事業部長 若山昭

1 月度：サークル紹介と講演会

先月、12 月号でもお知らせしましたように、1 月 28 日（土）13 時より、新所沢コミュニティセンター別館ホールにおいて、「ところざわ倶楽部」のサークル紹介と、ひの社会教育センター館長 中能孝則氏による「北欧デンマークに学ぶ福祉社会」と題する講演会を開催致します。

先ず、13 時からサークル紹介を行います。18 期修了生におかれては、この紹介を聞いて所属サークルを決めたいと考えておられる方が多いとのことですが、必ずしも、現在活動中のサークルに加入する必要はありません。2 年次の仲間、1 年次のお友だち同士、はたまた、市民大学で気の合った皆さま方で、どしどし新サークルを立ち上げて下さい。既にあるサークルと同じ目的のサークルでも構いません。仲間同士でサークルを作り、サークル同士でさらに大きな活動の輪を広げる、それがところざわ倶楽部です。多彩なサークルを作りましょう。

引き続いて 14 時から中能氏の講演が始まります。中能氏は、デンマークの社会と日本の社会の大きな違いに大変興味を持たれて、デンマークに 20 回を超えるほど訪問され、友人知人はいうに及ばず、市井のバスやタクシーの運転手などにも気楽に声をかけて、高福祉社会の秘密を探ろうとされてきました。



それらの膨大な情報に緻密な鋭い分析を加えた、大変興味深いお話が聞けると思います。ぜひとも皆様のご参加をお待ちしております。

3 月度：講演会

3 月には 23 日（金）、中央公民館において、ところざわ倶楽部初の女性講師による講演会を企画中です。

現代的なテーマで、かつ考えさせる内容にしたいと現在鋭意検討中です。

ところざわ倶楽部特別会員紹介

「ところざわ倶楽部」では、各期市民大学でご講義いただいた下記 14 名の先生方に特別会員になって頂き、各サークル活動のご指導をお願いしています。今後も市民大学や講演会等でお世話になった先生に「特別会員」になって頂き、ところざわ倶楽部の活動のバックアップ、ご指導をお願いする所存です。

	講座	顧問	氏名	所属	期
1	音楽	○	藤田 明	聖学院大学教授	14 期・17 期
2	歌舞伎	○	近藤 瑞男	共立女子大学文学部教授	14 期・17 期
3	文学と音楽	○	笠松 泰洋	作曲家・演奏家	14 期～18 期
4	日本とアメリカ	○	藤田 博司	元共同通信・論説副委員長	14・15・17 期
5	日本経済		浜林 正夫	一橋大学名誉教授	14 期・15 期
6	地球環境		太田 俊二	早稲田大学准教授	14 期・18 期
7	地域の自然	○	大堀 聡	早稲田大学自然環境調査室主任	14 期～18 期
8	地域の農業		中 健二	農業	14 期
9	所沢の歴史	○	門内 政広	文化財保存全国協議会員	14 期
10	日本の外交		萬歳 寛之	早稲田大学法学部教授	16 期・18 期
11	TV メディア論		門奈 直樹	立教大学名誉教授	15 期
12	都市の環境	○	安藤 聡彦	埼玉大学准教授	16 期・18 期
13	地方自治	○	廣瀬 克哉	法政大学法学部教授	16 期・18 期
14	日本と世界	○	羅 歆鎮	東京経済大学教授	14 期

支え！ 学び！ 遊ぶ！ サークル活動レポート

《傍聴席》

「傍聴席」から見る

23 年度の所沢市政と 24 年度の展望

【23 年を振り返ると】

本間 滋

何といても 3 月 11 日の東日本大震災とこれに続く福島原発の重大事故、これは誰しも思い浮かぶところですが、「傍聴席」としては 3 月 12 日に行ったシンポジウム「郊外都市所沢は生き残れるか」のことが記憶に新しいところです。

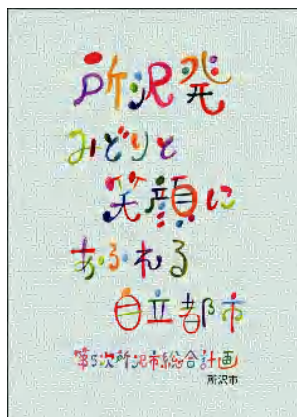


（「郊外都市所沢は生き残れるか」の一コマ）

震災翌日であり、果して何人が参加してくれるかわいささか不安もありましたが、何と 100 人近い方々が集まりました。特別参加の市議会議員や市の職員も加わり、廣瀬克哉先生の明快な基調講演と講評が相まって新形式のディスカッションも成功裡に終り、改めて「ところざわ倶楽部」会員の意識の高さを再確認することができました。

【23 年度の所沢市政】

特筆すべきは、第 5 次総合計画が始動したことと、7 月に自治基本条例が施行されたことでしょう。それともう一つ、春の市議選で新しい議員が 12 名登場したことと、現職有利の下馬評とは逆に藤本正人氏が僅かに 1626 票差（獲得票数 38,655 票）で勝利し、市長に就任したことでしょう。因みに投票率は 34.68%でした。



一方、外的与件では、円高の進行やユーロ危機など政治・経済面で世界的な不安要素が著しく高まり、国内的には現政権の失政、国家財政の甚だしい歳入欠陥と 1,000 兆を超えようとする国家としての債務残高、

これに 3 月の大災害やタイの大洪水などの影響が加わり、日本経済も一段と混迷の度を増していますが、そのような与件の変化は、所沢市の財政にも憂慮すべき現象として現れています。それは市税の減少です。

所沢市は長い間東京のベッドタウンとしての人口増と、これがもたらした個人市民税や固定資産税による潤沢な税収を享受してきましたが、いまや県下最速の高齢化によって人口は伸び悩みから減少に転じつつあります。23 年度の税収は 12 月定例会での補正では、個人市民税で 7 億 8400 万、法人市民税で 5000 万、これに固定資産税、都市計画税の減収分を加えれば、実に 9 億 4100 万の減額修正が行われました。つまり歳入の根幹部分に陰りが出てきているのです。

【24 年度の所沢市政】

これは何といても藤本新市長がどのような市政方針を打ち出すかにかかります。

当麻前市長の 4S (Safety, Soft, Smile, Save) の 40 項目に亘るマニフェストに基く「あったか市政」には、あまりに間口が広く焦点が定まらないという批判もありました。



（藤本正人新市長）

これに対して藤本氏は、市長選に際しマニフェストを示さず、代わりに教育、環境、福祉・自治、文化・ブランド、行政についての「5 つの思い」と「所沢成長作戦」、それぞれに 5 つの“スローガン”を掲げて戦いを制しました。この“スローガン”作戦による勝利は、所沢市民による一つの“選択”でもあります。

それだけに 2 月 21 日から始まる 24 年 3 月の定例会で、藤本市長がどのような市政方針のもと、どのような具体的政策を打ち出してくるかが注目されます。最大のテーマは「文教都市」作りだといいますが、“財政無くして政策無し”ともいいます。先に述べたこれからの財政の舵取りも極めて重要です。これらをしっかり見届けることは、結果として藤本氏を選んだ「所沢市民の責務」でもあるということを、新年に当たってお一人お一人が想起して頂ければと思います。

《アジア研究会》

大連、旅順、瀋陽への旅

島川謙二

私はこの2～3年、北京、西安、ベトナム、ロシア、大連、旅順、瀋陽を旅しました。人間がつくりだした建造物、文化、暮らし、生き方を見るのは楽しいものです。非日常性のなかで・・・。

今回は『坂の上の雲』に関わる旅を書きましょう。

日露戦争の舞台であり、かつて20万人もの日本人が住んでいた大連、その郊外の『経済技術開発区』には現在300社以上の日本企業が進出して頑張っています。

私たちが泊まった『大連賓館』は旧ヤマトホテルで1914年に完成したルネサンス様式のホテルです。

中山広場には他に満州支配の名残の大連市役所、横浜正金銀行、大連警察署、朝鮮銀行などの建物があり、満鉄本社ビルも現役で使われていました。

丁度中秋の名月が昇り、私は中山広場のベンチで『歴史』の感慨にふけりました。安くて美味しい大連の海鮮料理に地ビールそして美人、最高でした。若者が多い青泥街、ブランド専門デパート、巨大な地下街、林立する超高層ビル、地下鉄工事など活気にあふれています。しかし、路上で幼い女の子をつれた父親が玉ねぎの山を売っていましたが、誰も買いません。これが現実です。

堀田善衛は昭和32年(1957年)に『インドで考えたこと』を刊行、現在60数版を数えるインドについての名著の一冊です。堀田は『その歩みがのろからうがなんだろうが、アジアは生きたい、生きたいと叫んでいる。西欧は死にたくない、死にたくないといっている』と結んでいます。まさに低開発国だったアジアの国々(わが国も含めて)が中進国以上に発展している歴史の現実があります。

ちなみに人口は大連が約600万人、瀋陽が約800万人です。

大連から45キロの旅順。203景区



写真①

という公園の広い舗装道路を30分登ると203高地の頂上で旅順港が一望のもとに見渡せました。死傷者6万人の惨憺たる戦争の爪跡、203高地にちなんだ薬きょうや砲弾で作った『璽霊山』という慰霊塔が建っていました。中国語、中国人ではなく、関西弁、日本語と日本人の観光客がなんとも懐かしく、『自分は日本人なのだ』と実感しました。(写真①)

大連から瀋陽(奉天)へは、高速道路を5時間の快適なバスの旅でした。瀋陽の故宮博物院は北京の方がずっと大きく、福陵は静かで広大なヌルハチの陵でした。瀋陽では日露戦争で壮絶な戦いが繰り広げられました。さらに満州事変から太平洋戦争へと繋がっていく柳条湖事件(1931年9月18日)の場に巨大な石の建造物の『918歴史博物館』が建っており、壁の字は江沢民の揮毫によるものです。線路、枕木などが展示されていました。(写真②)



写真②

正岡子規は明治28年(1895年)故郷松山に帰って『春や昔十五万石の城下かな』と伊予松山の人情や風景ののびやかさを、のびやかなまま詠みました。司馬遼太郎は『坂の上の雲』で『伊予松山というのは地味が肥え、物実りがよく、気候は温暖で、しかも郊外には道後の温泉があり、すべて駘蕩としている。伊予ことばというのは日本でもっとも悠長なことばである。』と書いています。なお、秋山好古、真之兄弟の実家は私の従兄の家の近くにあります。

数年前、秋晴れの桂浜で『日本を今一度せんたくいたし申候』の坂本竜馬の銅像を仰ぎ見てウルルンしましたが、今だったらどうでしょうか。

司馬遼太郎は『坂の上の雲』のあとがきに、『登ってゆく坂の上の青い天にもし一朵の白い雲が輝いてるとすれば、そのみを見詰めて坂を登ってゆくであろう。』と書いています。

しかし、今、人生の坂を下りている私はゆっくりと、まわりに目を向けながら歩きたい。それは日本人としての楽しみ方なのです。

《歴史散策クラブ》

新河岸川舟運とさつま芋



大河原 功

一陽来福 本年もよろしくお願いします

今年はサークルの班編成も装い新たに、全員参加の企画・活動を推進します。勿論そこに参加する喜び、新たな発見、そして感動をめざした活動には変化ありません。

今回、私たちは新河岸川の舟運を学ぶため、ふじみ野市にある福岡河岸（福岡河岸記念館、上福岡歴史資料館含む）を訪ねました。紙面をかりて意外な発見を紹介します。

三富新田の開拓が始められた元禄7年(1694年)から65年、残された武蔵野のほとんどが新田開発された寛延4年(1751年)、この地に救荒作物としてさつま芋の栽培が始まりました。やがて栽培されたさつま芋は江戸に運ばれるようになり、川越藩（三富新田）で生産されるさつま芋として、江戸っ子から「富の川越いも」の名で呼ばれるまでの商品になります。今までの貧しい生活から、かつて吉保がこの地の「富」を願って命名した「富」へと向かったのです。

福岡河岸には吉野屋・江戸屋・福田屋の3軒の船問屋がありました。そこで取り扱った主な船荷は、下り（福岡河岸→江戸）は飯能・青梅方面からの薪・炭など、三富新田などからのさつま芋・里芋・牛蒡などの農産物、上り（江戸→福岡河岸）は木灰・藁灰・糠・干鰯・鶏糞など灰と肥料、空俵・菰・瀬戸物・・・などがありました。

福岡河岸など河岸場の多くは新河岸川の右岸に設けられていました。船荷からもわかる通り、後背地に畑

作地帯を抱えさつま芋などの農産物や肥料の運搬などの利便への配慮にあることが推測できます。

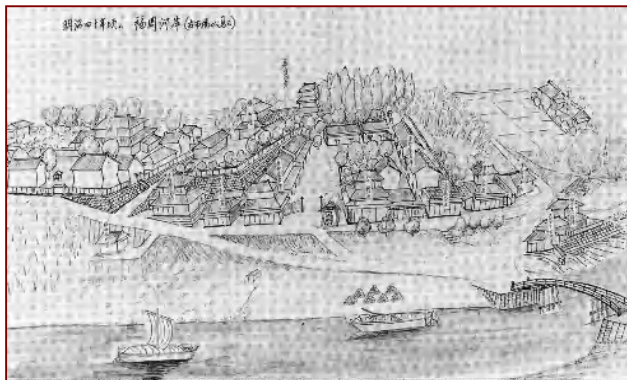
船荷の空俵・菰は、一度米や牛蒡などの出荷で使われたものです。江戸には日本中からコメが集まってくるので、それを入れてきた俵が古俵として大量に出ました。「古俵屋」によって回収され一部は空俵として福岡河岸にも送られてきたのです。三富新田などから収穫されたさつま芋は、この空俵に詰めて再び江戸に出荷されました。その後、この芋俵は焼き芋の燃料として燃やされたそうです。

また、かまどから出る大量の灰は「灰屋」がやってきて回収し、他の肥料と一緒に地方の河岸場に送られて、三富新田など畑作に使用されたのです。三富新田などの薄地では落ち葉だけでは、美味しいさつま芋や江戸の食卓を賄うだけの作物の生産はできなかったのです。糞尿を専門に扱う肥船・葛西船なども沿岸に来て農家にこれを売り渡し、田畑の肥料として使用されたそうです。

当時の三富新田などの循環型農業が、江戸で発達した資源のリサイクル・システムのなかで営まれていたことを示しています。大きな発見と驚きです。

天保期(1830~44年)になるとようやく消費が伸び、三富新田の農産物の中でもさつま芋の生産量が一段と増していきました。さつま芋の販売合戦でこんなエピソードがあります。栗（九里）の味に近いという意味で、さつま芋のことを「八里」と呼び「もっと九里に近い」と「八里半」と呼んだそうです。江戸では「九里四里うまい十三里」さらにその上を行く「九里四里うまい十三里半」などと店に看板を掲げ競ってさつま芋を販売したといひます。

看板に偽りなし「富の川越いも」に万歳！

さつまいも
始作地之碑

(明治40年頃の福岡河岸街並みの図)



(昭和50年頃の三富新田さつま芋収穫風景)



(神明社(中富)の「いも神様」)

《所沢の自然と農業》

自然の保全・再生と農産物のブランド化・地産地消 推進による地域の活性化を目指して

高橋 昶彦

昨年 1 年、ボランティア精神旺盛なわがサークルは、大都市東京近郊にありながら、まだまだ緑が沢山残されているわが町所沢の美しい自然を保全し、その自然の一部を構成する農業を活性化する活動に積極的に取り組んできました。今年も年明けの 1 月 5 日から落ち葉掃き支援活動を開始しました。



(陽子ファームの落ち葉掃き 24.1.5)

農業は所沢の重要な産業であり、優れた立地条件下にあります。離

農者の増加、農業後継者の減少による農業者の高齢化が進み、畑の耕作放棄地化が進んでいます。

また、平地林の減少と労働力の減少は落ち葉掃きを敬遠させ、長い伝統を誇る三富の循環型農業もままなくなってきました。その結果、平地林は荒れ、折角の景観を台無しにしています。

今年も、このような自然と農業を巡る様々な問題に、何とか活路を見出すことが出来ないものかと、志を同じくする他の団体と連携しつつ活動を続けて参ります。

今回は当サークル会員の清水仁一さんが中心となって活動している、「日比田調節池」を地域活性化の拠点として整備する活動について紹介します。

ところざわ倶楽部の会員の皆さんも、わがサークルの地域活性化活動に参加しませんか。

東川の「日比田調節池」を市民の憩いの場と 地域の活性化拠点にしましょう！

東川の治水を目的とした「日比田調節池」は、一周約 900m、約 5 万㎡の広さで現在工事中です。

私たちは、この貴重な場所を「市民の憩いと学習の場」及び「地域活性化の拠点」として活用したいと考え、埼玉県、所沢市と「協働」で活動を始めました。

■日比田調節池の活用提案内容

1. 憩いと学びの場に！

⇒ 大人も子どもも楽しみ、学べる場とする。

- ① ビオトープを中心とした水辺の自然観察エリア（清瀬市にある金山調節池のミニ版を目指す）
- ② 四季折々の花が楽しめるお花畑
- ③ 子どもたちの体験農場など
- ④ スポーツ＆芝生広場及び、外周路での健康づくり

2. 地域活性化の拠点に！

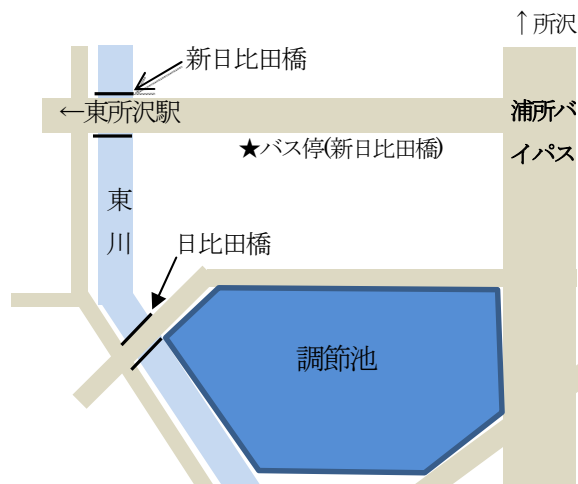
⇒ 調節池を拠点とした散策ルートづくり

- ① 歴史・文化ルート・・・柳瀬民俗資料館、城址公園、黄林閣など
- ② お花見ルート・・・春：東川の桜、秋：東川の彼岸花、四季：調整池のお花畑
- ③ 観光農園ルート・・・茶摘み＆工場見学、果樹園、さつまいも掘り、枝豆収穫

3. 地域コミュニティの促進

⇒ 地域内、異世代、農家と消費者などの交流の場とする。

- ① グループ間での交流
- ② 調節池の維持管理活動（清掃活動、川＆花祭り、生物・植物学習等）による交流



活用計画策定と完成後の維持管理活動に参加しませんか

■連絡先：所沢の自然と農業サークル 清水仁一

電話/FAX：04-2944-8835

Eメール：jshimizu@pol.dti2.ne.jp

サークル活動計画



■ 1 月・2 月のサークル活動！興味ある活動に参加してみませんか！

アジア研究会 1 月 18 日 (水) 13:30～16:30 中央公民館 8、9 号室 定例会：朝鮮戦争の実話を映画化した DVD を鑑賞 2 月定例会 第 3 水曜日に開催予定。 場所、時刻は後報	地域の自然 1 月 14 日 (土) 堆肥場の移設と畑の掘り返し 9 時～ 1 月 28 日 (土) 落葉掻き (イベント中止) 9 時～ 2 月 4 日 (土) 同上と常緑樹の伐採 9 時～ 2 月 18 日 (土) 同上 9 時～
傍聴席 1 月 16 日 (月) 15:00～ 新所コミ・セン別館 総会準備、本年度活動計画 2 月 未定 別途連絡	歴史散策クラブ 1 月 14 日 (土) 雑司ヶ谷 (七福神、霊園他) 集合：所沢駅池袋行ホーム最後尾 12:30 2 月 18 日 (土) 民話の地 (日月神社他) を訪ねる。 集合：所沢駅西口 13:00
楽悠クラブ 1 月 10 日 (火) 13:30～ 中央公民館 8・9 号室 映画「サウンド・オブ・ミュージック」鑑賞 2 月 21 日 (火) 13:30～中央公民館 8・9 号室 歌劇「マクベス」鑑賞	ドラマティック・カンパニー 1 月 21 日 (土) & 2 月 4 日 (土) 10:00～12:00 場所：新所沢コミュニティ・センター別館 シェクスピア「十二夜」を読み進めます。
地球環境に学ぶ 1 月 17 日 (火) 15:00～新所沢コミ・セン別館 5 号室 定例会 ①各自勉強の発表 ②1/28(土) サークル紹介の打ち合わせ 2 月 21 日 (火) 定例会予定	葵の会 1 月 12 日 (木) 12:00～ 総会及び新年会 場所：徳寿庵 (所沢駅東口ウィンズ時遊館 2F) TEL 04-2991-7385 ※ 場所分らない人 11:50 駅南口集合
地域の自然を考える会 1 月 24 日 (火) 定例会 13:00～ 新所沢公民館 平成 24 年度活動計画について 2 月 21 日 (火) 定例会 * 定例会は原則毎月第 4 火曜日開催	野老澤の歴史を楽しむ会 1 月 5 日 (木) 水天宮初詣：所沢駅西口 (西武デパート横 花屋付近) 10 時集合。屋台にて昼食。雪雨中止。 1 月 19 日 (木) 13:30～生涯学習推進センター 本年度活動計画の話し合い
公園を楽しむ会 1 月 26 日 (木) 古都鎌倉への初詣、福祉バスを利用。 会費 2,500 円、定員：30 名 申込み順 2 月 23 日 (木) 大宮の鉄道博物館と県立博物館	北欧の会 1 月 28 日 (土) 第 27 回例会 14:00～ 場所：新所沢コミュニティ・センター別館 講演会「北欧デンマークに学ぶ福祉社会」 2 月 25 日 (土) 第 28 回例会 13 時 20 分
所沢の自然と農業 1 月 12 日 (木) 月例会 13:30～新所コミ・セン別館 1 月 13 日 (金) 落ち葉掃き支援 (関谷農園：下富) 1 月 21 日 (土) 落ち葉掃き支援 (赤坂の森：狭山市) 1 月 28 日 (土) 農と里山シンポ (淑徳大学：三芳町)	音楽連・市民大学派 1 月 30 日 (月) (中央公民館 15:00～17:00) 例会 2 月 6 日 (月) (中央公民館 13:00～15:00) 例会 2 月 20 日 (月) (中央公民館 13:00～15:00) 例会

料理コーナー



I 向田邦子さんのエッセイにあったものを思い出して作ってみました。

新井光子



＜豚肉と生姜の煮つけ＞ 2人分



*材料

① 豚小間切れ: 200 g ② 生姜: 100 g ③ 水: 150cc

*調味料

① 酒: 大さじ4 ② 醤油: 大さじ2~3

*作り方

- ① 豚肉を一口大に切り、生姜は千切りにする。
- ② 材料を鍋に全部入れ、ひと煮たちしてアクをとる。
- ③ 調味料を加え、中火で5分、弱火で10分煮る。

II 風邪を引きやすい季節になってきました。風邪予防にポカポカと身体が暖まる簡単料理を紹介します。

後藤律子



＜生姜とネギの春巻包み＞ 2人分



*材料

① 春巻の皮ミニサイズ: 10枚 ② 生姜: 100g
③ 長ネギ: 1本 ④ 溶き片栗粉: 少量

*調味料等

① サラダ油適宜 ② ポン酢

*作り方

- ① 生姜と長ネギを約5センチに切り、千切りにする。
- ② 切った生姜とネギを春巻の皮で包み、皮の端がはがれないように、溶き片栗粉をつけて貼り付ける。
- ③ フライパンに多めにサラダ油を引き、こんがり焼く。
- ④ 焼きあがったらポン酢をかけていただきます。



編集後記

▼ 第4期では1年間試行錯誤しながら「広場」の編集を行ってきました。編集方針を明確にし、もっと主義、主張を入れるべきであるという提言も頂いていますが、まだ発展途上で紙面を纏めるのが精いっぱい、余裕がありませんでした。第5期はスタッフも揃いましたので、段階的に広場のカラーを打ち出し、紙面の強化を図りたいと考えています。

▼ 新年号は新たに8Pとし「サークル活動を通して見た所沢」という視点から各1P、4サークルの活動を紹介させていただきました。傍聴席、アジア研究会、歴史散策クラブ、所沢の自然と農業とも中身の濃いすばらしい内容で、それぞれサークル活動のレベルの高さを実感しました。

▼ 5期目を迎えたところざわ倶楽部の課題として、知名度のアップ、世代交代の問題があります。昨年所沢の新聞、TV メディア関係の人とお会いしましたが、

檀家らの静かに忙し年用意
椅子に座す白鳳仏や冬ぬくし
黄葉の木立高々深大寺
寺をあげ障子張り替へ深大寺
句碑に向き小さく折る寒さかな
句碑の辺に絶え間なく降る落葉かな
抜きん出てケネディといふ冬薔薇
新暦売るや蕎麦家の椅子堅し
恙なく句碑をなぞりぬ十二月
庫裡裏の障子繕ふをとこ衆
幾すじの園の径や冬紅葉

鈴木 すぐる
鈴木 征子
田中 溢子
利根川 啓一
中村 直子
橋本 佑子
平栗 彰子
荒幡 千鶴子
井出 昇
海老澤 愛之助
粕谷 昇

二三羽の鳥見下す冬木立
深大寺全山清き冬の水
崖よりの流れの透ける冬紅葉
カリヨンの音色聞き入る冬薔薇
鯉跳ねて水面の紅葉散らしけり
深大寺信者が集ふ師走かな
尼僧二人語らふ庭や冬薔薇
二十日の句会から
湖に捨舟浮かぶ時雨かな
ロスタイム積み重なりて年の暮
湯豆腐や語尾まろやかに京言葉

小林 貞夫
小林 典子
佐藤 八郎
白神 恵子
高梨 千代
高橋 三郎
高光 泉
飯泉 陽子
岡本 博
河瀬 俊彦

むさし野俳句会(二十三年十二月) 作品抄

一部の人を除きあまり倶楽部の事を知らないようでしたが、かなりしました。かなりのサークルが4~5年を経て、本格的に地域活動をしています。一部サークルの活動を除き、一般的に知られていないのは残念です。また、世代交代の問題ではサークルが市民大学14期、15期に集中し16期3サークル、17期1サークル、18期は現在1サークルの申請と年々減少しています。同ようなサークルを立ち上げることに疑問があるのかもしれませんが。倶楽部への理解を深めて頂くため、市民大大学生との地道な交流、話し合いが大事と考えます。

▼ 活動が点となっており、集合体としての塊の部分の魅力、求心力が弱いのかもかもしれません。サークル間の横の連携を深め、全体的なパワーをつける必要があるのではと思います。広報はホームページの再構築を検討していますが、ところざわ倶楽部をより強くアピールできる手段になればと思っています。(池田 記)